

高齢者施設における「お薬へらすゾウ教室」の実践と評価

百 賢二 ● 昭和医科大学 統括薬剤部／薬学部 病院薬剤学講座 臨床研究部門 准教授



高齢者施設において臨床薬剤師が薬の相談を受けている様子

要 旨

本研究では、高齢者施設における医薬品の適正使用を目指し、臨床薬剤師による集団指導と個別相談を実施した。集団指導には61名、個別相談には29名が参加し、集団指導参加者の約75%が処方薬を見直すきっかけになったと回答した。個別相談では、薬の妥当性や副作用、制度面、日常生活上の疑問など多岐にわたる相談が寄せられた。これらの結果から、高齢者施設における継続的な薬学的支援と地域連携の重要性が示された。

地域医療貢献のポイント

本研究において、高齢者施設におけるポリファーマシー、処方薬に関する利用者の理解度を明らかにすることができる。

これまで高齢者施設における医薬品の使用に関する情報は十分に明らかになっているとは言えず、本研究において記述的に実態を評価することは意義がある。加えて、本研究を通じて地域の中で減薬の取り組みが成功すれば、地域医療に貢献するアカデミアの取り組みとして新たな可能性を提案することが可能となる。

1. 取り組みの目的と方法

国民皆保険制度である本邦では、ピラミッド型の人口比率であった50年前と比べ、働き盛り世代の割合が減少し、総人口の約30%を占める高齢者の介護、医療費負担が困難な状況である。過去数十年にわたり、平均寿命も世界トップクラスを維持していることは注目すべき点であるが、一方で、諸先進国と比べて病院を受診しやすい点、医薬品へのアクセスがフリーである点など、医療費の観点から日本が抱える課題は大きく、特に有害事象を発症しやすい高齢者においては、総合的な処方薬のレビューと処方の適正化が必要である。本研究では高齢者施設における臨床薬剤師による個別相談および集団指導を実践する。

本研究では、高齢者施設(株式会社クラチの関連施設)をフィールドとして実施する。具体的には、以下の2点である。

- ① 集団を対象としたレクチャーに関する満足度、理解度に関するアンケート調査
- ② 利用者個々を対象としたお薬相談による具体的な相談内容の分析



「お薬へらすゾウ教室」における集団指導。ポリファーマシーの危険性を高齢者にレクチャーしている

2. 現状の成果・考察

本活動では、薬剤師による集団・個別指導は東京都、神奈川県(本郷、用賀、溝の口)のサービス付き高齢者向け住宅で実施した。対象は高齢者施設利用者とし、利用者からの相談の応需は、昭和医科大学でトレーニングを受けた臨床薬剤師が実施した。

1) 「お薬へらすゾウ教室」および医薬品の一般的なリスクなどに関する講演会形式の集団指導、2) 施設利用者に対する服薬指導と健康相談形式の個別指導から得られた情報を後ろ向きに集計した。本研究は昭和医科大学臨床研究倫理審査委員会の承認を受け(2024-230-A)、利用者からは書面による同意を得て実施した。

高齢者施設への訪問は原則1カ月に1回実施した。集団指導には61名の参加があった。テーマは「ポリファーマシー」「CKD」等の高齢者に関するテーマを複数準備し、20分のレクチャー後、質疑応答を受けるスタイルで開催した。

参加者のうち、自身に処方されている医薬品の見直しになったという回答は全体の約75%であった。

次に、個別相談を受けた高齢者29名における具体的な相談内容を示す。個別指導時の質問内容は多岐に渡っており、自身の薬物治療の妥当性や、健康面の不安などに関する内容が多かった。

表1 集団指導の参加者の背景

女性／男性(人数)	46／15
80歳以上(人数、割合)	48(78.7%)
処方薬剤数6剤以上(人数、割合)	19(31.1%)
市販薬を使用している(人数、割合)	16(26.2%)
サプリメントを使用している(人数、割合)	21(34.4%)
お薬手帳を使用している(人数、割合)	57(93.4%)
現在通院している診療科・診療所が2カ所以上(人数、割合)	42(68.9%)

高齢者施設における集団・個別指導を実施し、あらためて施設における医薬品の適正使用に関する継続的な関わりが必要である可能性が考えられた。

3. 今後の展望

本研究では、これまでわれわれが取り組んできた「お薬へらすゾウ教室」を高齢者施設で実施することで、これまで手の届きにくかった高齢者施設において、高齢者に対する医薬品の適正使用に貢献するものである。

本活動を今後も継続することで、薬剤師の処方レビューに基づく介入を高齢者の不必要な医薬品投与と減薬の関係について検討を進めるとともに、地域連携により、出張型お薬相談会(われわれは「お薬へらすゾウ教室」と呼称)が、広く高齢者の健康増進に寄与する可能性を広く国民に提示する予定である。

【成果の公表】

- ① 仁尾祐太、百賢二他、臨床薬剤師が実践する高齢者施設における個別・集団指導の評価、日本医療薬学会第35年会
- ② 嶋村久美子、百賢二他、臨床薬剤師による高齢者施設における個別・集団指導の評価 第二報、第146回日本薬学会

図1 集団指導後に行ったアンケート結果：自身に処方されている医薬品を見直すきっかけとなったかどうか

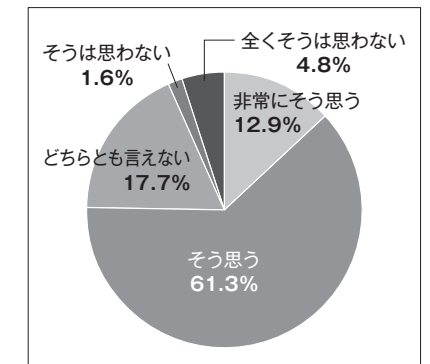


表2 個別相談の具体的な内容

	人数	具体的な内容例
副作用関連	3	アルツハイマー治療薬を使用すると活力が低下しないか不安 エルデカルシトールを内服しており以前高Ca血症になったスタチン系の発がんリスクが気になる
治療関連	20	アムロジピン5mg 2錠で服用していたため10mg 1錠での服用を提案(お薬手帳に記載)、不眠時にデビゴを3～4時に追加服用して良いか、抗凝固薬は断続服用が必要なのか
制度関連	10	処方内容に疑問があっても誰に聞いたら良いかわからない、インターネットでの副作用の情報と薬局でもらう説明用紙の副作用の内容が違う、後発品は先発品と効能が違うのか
日常生活関連	3	栄養補助目的のサプリメントを飲んでも問題ないか 青汁に含まれている乳酸菌とヨーグルトの飲み合わせについての質問